Ⅱ 実践

手立て4 国語科を例とした単元構成・授業実践

授業実践2

目標設定

単元名「ブレーメンのまちのはなし」(教科としての国語「読むこと」)

授業実践1と同様に「指導内容一覧表」を使って、本単元に関わる、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等(読むこと)」について実態把握を行いました。下図は、「読むこと」の一部分です。

<u></u>	\	指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
思考		イ絵本などを見て,知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	1段階	0	0	0	0	0
力	読	イ教師と一緒に絵本などを見て,時間の経過などの大体を捉えること。	2 段階	\bigodot	0	\odot	0	0
、判断力、	t)	イ絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	3 段階		0		0	0
	- ا	イ場面の様子や登場人物の行動など,内容の大体を捉えること。	1・2年		(*)		0	\odot
		イ登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	3・4年				(
等		イ登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	5・6年					

◎:十分達成されている状態 ○:概ね達成されている状態 ★:本単元で目指す内容



登場人物の行動に絞って読み取りを 行いました。登場人物が書いてあるカードと、行動が書いてあるカードをそれぞれ選んで貼ります。また、書字力を高めることにも課題があったため、登場人物の名前をなぞり書きすることとしました。

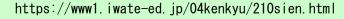


前回の実践で、目標設定が高かったという課題を受け、概ね達成されている内容にも着目し、これらの内容を問うような問題を意図的に盛り込みました。また教科書のどの部分を読めば解答できるのか迷い、活動が止まってしまう様子が見られたため、教科書見開きで解答できる問題をプリント1枚に設定しました。

本単元でも、観点別学習状況の評価と、観点以外の児童の変容を見取る個人内評価を行いました。「振り返りカード」も継続させることで、児童は進んで書いたり、書く量が増えたりしました。単元を通しての成果(\odot)と課題(\triangle)は、以下の4点です。

- ◎児童にとって興味のある活動や,自力で取り組む課題があることは,教科別の指導にも効果的であった
- ◎概ね達成されている内容も踏まえて目標と内容を設定する必要があり、指導内容を広く理解する上で、指導内容一覧表は有効であった
- ◎指導内容一覧表は、次の単元や他教科等にも引き継いで活用できるものであった
- ▲次の学習につなげることで、単元が変わっても系統的に指導する必要があった

研究内容や「授業づくり活用パック」を使っての授業づくりの詳細は、当センターの Web ページに掲載しています。





(1126-)

令和元年度 岩手県立総合教育センター

研究主題

知的障がい教育における 教育課程の適切な実施に関する研究 (小学校特別支援学級)

-学びの連続性を踏まえた単元構成・授業づくりを通して-

【研究担当者】長期研修生 藤井 未央 (所属校 盛岡市立向中野小学校) 【この研究に関する問い合わせ先】 TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562

TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562 E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

[研究の構想

令和2年度から全面実施される小学校学習指導要領総則及び解説において、特別な配慮を必要とする児童への指導についてより明確に示されるようになりました。また、特別支援学校学習指導要領解説は、小学校及び中学校の各教科等の目標や内容等との連続性や関連性をより重視したものになりました。従って、特別の教育課程を編成することができる知的障がい特別支援学級においては、特別支援学校における教育課程に関する知識・理解を深め、それを実際の授業で具現化する専門性が求められています。

特別支援学級の現状と課題として、これまでの研究から以下の4点が挙げられています。

- ・児童数の増加による、専門的な支援の必要性
- ・担任経験年数の少なさ
- ・特別支援学校の教育課程の理解不足
- ・特別の教育課程の編成の難しさ

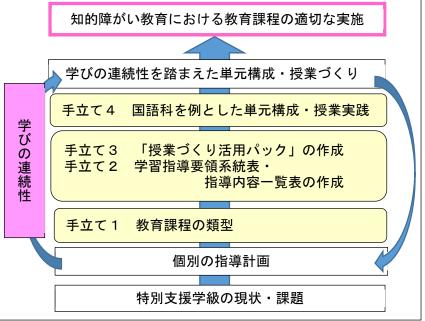
これらの課題を踏まえ、「知的障がい教育における教育課程の 適切な実施」に向け、手立てを下図の4点にして、研究を進める こととしました。

「適切な実施」とは・・・

児童の実態に応じた目標や内容,手立てが明確な授業が実施されること

「学びの連続性とは・・・

多様な学びの場を準備するだけでなく、それぞれの場における目標や指導内容に着目し学校種を越えてニーズに応じた十分な教育を目指すもの



【研究構想図】



実践

手立て1 教育課程の分類

- ・小学校の各教科等を中心に編成したもの
- ・小学校の各教科等に特別支援学校(知的障がい)の各教科等を取り入れて編成したもの
- ・小学校の各教科等に各教科等を合わせた指導を取り入れて編成したもの

先行研究等を参考に、上記のように3つに分類しました。この分類は、全ての児童に当てはまるわけではありませんが、 教育課程編成の参考になるものであり、特別支援学校との連続性が必要であると捉えることができます。

必要などころを クリック!

1 学習指導要領系統表

特別支援学校と小学校の学習指導要派より、目標と内容を整理し ました。同じ内容を、高級的に見ることができます。

手立て2・3 学習指導要領系統表・指導内容一覧表の作成、「授業づくり活用パック」の作成



「メニューシート」の中から、必要なシート を選んで使うことができます。

学習指導要領系統表

	目標・内容の一覧【国	語】	<u> </u>							
	知的影	草がい特別支援学校(小章	(書)	小羊板						
##oll#	言葉による見方・考え方を暴かせ、ま を目指す。	自然を始め返して、自然で準備し差別す ?	5乗撃・動力を吹のとおり脅威すること	と 音楽による見ち・考え方を参かせ、音楽が微を通して、音楽では変に発明し音楽する改革・能力を決めたおり音楽することを目前す。						
加拿及订款 数	(1) 日本生活について必要も表現につ	いて、その特質を理解し使うことができ	825648,	(b) ロ事業家について必要も影響について、その特殊を理解し受けた更多ことができるようにする。						
正介力・平 を力・表表 力等	(2) 日常生産における人との見わりの	うちおを高め、温寿カド塩株力を使ち、								
子びに向き う立、人間 性等	(1) 古泉で投え合うよさを喰にるとと	もに、言葉協議を含い、原始を大切にし	てその終力の自止を感る態度を繰ら、	, D) 言葉がもつよとも共命するとともに、言葉信気を含む、原葉の大切とも含英し、原葉を基準してその能力の発土をおる能差を含う。						
D in	122	122	122	第1章年及び第1章年	9174209174	96年4及796年4				
	かり使うようになるとともに、いろい ろな言葉や毎が移の書籍文化に終れる	ア 日本生命に必然な会域な客間を介 に対けるとともに、いろいろな客間を 毎が日の書頭大化に挟れることができ るようにする。	飲を受に付けるとともに、実が他の書	(日本生産に必要な原動の経療や複数を会に 付けるとともに、果が使の高齢欠化に対しただ リ塩酸したりすることができるようにする。		(I) 日常な世に必要の理論の経路や基的とが 付けるとともに、来が他の高級文化に対した り理解したりすることができるようにする。				
₩カ. 真花 カサ	る関わりを見け止めたりする力を停 D. 日常気間における人との関わりの	イ 富貴が表す場所を提起したり受け よさたりする力を使い、日常会話にな ひる人との数かり中で他とのは、 分の取りをもつことができるようにす を、	イ 出来事の概体を無いおすかが吸し たり起発したりするかを探り、日本 設定おけるため異なりので数えの うえを身に対け、無い対いたり考えた リオることができるようにする。	(3) 程序立てで考える力を含むたり起復したり する力を受け、日常を定にませる人との契わり の中で核合う力を完め、日外の皿(10 予考えを もつことができるようにする。	(3) 構造立てて考える力を集けに強したり延載したりする力を接い、出考生が定分ける人との 関わりの中で投え合う力を含め、自分の単い 考えをまとわることができるようにする。	(B) 構造立てて考えるカタ集がに優したり建 したサする力を使い、日常生活における人と、 関わりの中で投え合う力を高っ、自分の単い 考えをまとめることができるようにする。				
5 h. AH	ウ 書集で集すことがそのよさを破じるとともに、書集を表すことがそのようとする意思 あたるに、書意を使おうとする意思 を修ち、	う 富良がもつよさを喰じるととも に、肥み削りを比較した。高泉でのク り取りを開いたり投えたりしようとす	う 書意がもつよすを楽しるととも に、原書に取した、単ロヤ寺えを始え たりをサイムを出して、サラスを始ま	(2) 書集がもつよさを吸じるとともに、乗しん で誘発をし、原建を大切にして、乗いや考えを 物を介まれてする数字を得る。	(3) 書集がもつよさに気付くとともに、解成く 飲みをし、思議を大力にして、単いや考えを致 え合えたでもな場合を作う。	(2) 書乗がもつよるを無路するとともに、最 で読みをし、現場の大切とを含まして、取り 表えを始め、のまりとする効果を参う。				

小学校と特別支援学校の各教科等の目標と内容を整理した 表です。上の表は国語科の目標です。

指導内容一覧表

_	指導内容	経路・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
T	ア(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が物事の内容を表していることを感じること。	1段階		7000	7000	74	7.0.00
	ア(7) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に憤れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	2段階					
	ア(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	3段階					
	(1)ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	1・2年					
	(1)ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	3 · 4年					
	(1)ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	5・6年					
	ア(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。	3段階					
	(1) イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音 に注意して話すこと。	1・2年					
	(1)イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。	3 · 4年					
	(1)イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。	5・6年					
	ア(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	2段階					
	ア(9) 日常でよく使う促音,長音などが含まれた語句,平仮名,片仮名,漢字の正しい使い方を知ること。	3段階					
6	a state of the control of the contro	1・2年					
葉の特徴	(1)	3・4年					
や使	(1)ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正	5・6年					
い方	1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、	1・2年					

指導内容を, 段階・学年順に並べ替えた表です。上の表は, 国語科知識及び技能「言葉の特徴や使い方」の一部です。

-									
国語	社会	算数	理科	生活	国語・第	数社	会・理科	生活	
音楽	图工	体育	家庭	外国語活動・外国語	音楽・図	工・体育	家庭 - 外面部	活動・外国語	道徳・特別活動
特別の	教科道德	総合的	な学習	特別活動					
3 #	旨導内容-	-覧表			4 5	体的内容	子の例		
	#親と小学校の学習指 裏観的に見ることが です。				等別支援学 より具体的に	検学智治療要派の射 したものです。指導	数末より、支機学校 内容の一側です。	の指揮内容を	
国語	社会	算数	理科	生活	国語	算数	生活		
音楽	图工	体育	家庭	外国語活動・外国語	音楽	图工	体育	外国語活動	・外国語
特別の	教科道德	特別活	動						

2 指導計画表

事項ことや遅年での、指導計画をです。等類ことであれば適性業 に、遅年のあれば長機や個別の指導計画に活用できます。指導内容 住、「3階級内容一覧」とリンりしていて、規模入力することがで

指導計画表

			指導計画		
				小学校と特別支援学校(知的)の内容	学(白は特別支援学校のみの内容)
教	科等	指導内容	年度当初の様子	支援内容(方法・場面・時期など)	年度末の様子
	知識・技能				
	聞くこと・				
国語	話すこと・				
	출<こと				
	続にと				

学期ごとや年間を通して使用することができる**計画表**です。 指導内容の欄は、「指導内容一覧表」とリンクしています。

具体的内容の例

_	指導内容	段階	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
	1 日常生活や遊びの中で,声や音のする方に振り向いたり,耳を傾けたりする。	1					
	1 教師や友達など,生活の中で関わる様々な人の話し言葉に聞き慣れる。	2	1		1		
	2 テレビやラジオなどの媒体を通した音声の口調や速度に聞き慣れる。	2	1				
	1 教師や友達との会話や読み聞かせを通して、物事の内容を表す言葉の働きに関心をもつ。	3					
	2 教師の話し掛けに表情や身振りで応じる。	1					
	3 教師の話し掛けに音声模倣などによる発声や発語で応じる。	1	1		1		
	4 教師や友達と一緒に声を出したり、手を叩いたりして、言葉のもつ音やリズムに関心をもつ。	1					
言	3 言葉を用いることで,気持ちや要求が相手に伝わることがわかる。	2					
葉	2 背筋を伸ばし,落ち着いた気持ちで話す。	3					
り特	3 唇や舌などを適切に使って発音する。	3					
徽	4 平仮名に関心をもつ。	2					
使	5 平仮名で書かれた自分の名前が分かる。	2					
L L	6 平仮名で書かれた友達の名前が分かる。	2					
方に	7 平仮名で書かれた動物の名前が分かる。	2					
関する	4 絵本や易しい読み物,わらべ歌,テレビやコンピューターの画面に出てくる促音, 長音等の含まれた語句や短い文を正しく読む。	3					
事	5 平仮名を読む。	3					
項	6 片仮名を読む。	3					
	7 簡単な漢字を読む。	3					

特別支援学校学習指導要領の内容を,解説に沿って具体的にし たものです。上の表は、国語科知識及び技能「言葉の特徴や使い 方に関する事項」の一部です。

手立て4 国語科を例とした単元構成・授業実践

授業実践1

実態把握

目標設定

展

単元名「お手紙を書こう」(生活単元学習と関連させた国語)

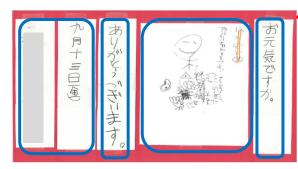
「指導内容一覧表」を使って、本単元に関わる、「知識及び技能」と「思考力、判断力、 表現力等(書くこと)」について実態把握を行いました。下図は、「書くこと」の部分です。 |実態把握を受けて単元で身に付けさせたい力を明らかにし、個々の目標設定をします。

	\	/	指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
思考力、			ア身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	1 段階	0	0	0	0	0
			ア経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを 思い浮かべたり、選んだりすること。	2 段階	(*)	0	•	0	0
	判断		ア身近で見聞きしたり, 経験したりしたことについて書きたいことを見付け, その題材に 必要な事柄を集めること。	3段階		(0	\bigcirc
力、表現力	`		ア経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめ たりして、伝えたいことを明確にすること。	1・2年				*	
	現		ア相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた 材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	3・4年					
	等		ア目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を 分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	5・6年					

◎:十分達成されている状態 ○:概ね達成されている状態 ★:本単元で目指す内容



第1時で郵便ごっこを行い、手紙が 届くまでの仕組みを体験しました。で きるだけ実物に近い形で再現し, 手紙 を出す人, 郵便局の人, 手紙を受け取 る人に分け、どの役も経験できるよう にしました。手紙を出す楽しみ, 郵便 局の人の仕事の難しさ, 手紙を受け取 る喜びを感じることができたと考えま す。



第3時で、「初めのあいさつ」「本文」「終わ りのあいさつ」「後付け」の4つの構成でお手 本作りをしました。「伝えたいことを思い浮か べる」や「伝えたいことを明確にする」とい う目標に迫るため、書きたいことを短冊に書 いて整理しました。この児童は、その時の様 子を絵でも表しています。絵に描くことで、 文章を膨らませることができました。

単元を通して、観点別学習状況の評価と、観点以外の児童の変容を見取る個人内評価 を行いました。個人内評価は、毎時間使用した「ふり返りカード」も有効な資料となり ました。単元を通しての成果(◎)と課題(▲)は、以下の4点です。

- ◎手紙を書く目的意識をもって進めることができ、生活単元学習と関連付けたことは効 果的であった
- ◎郵便ごっこをしたり,実物の封筒と切手を使ったりしたことで,児童の「書くこと」 に対する意欲を持続させて学習を進めることができた
- ◎「指導内容一覧表」は、児童の実態把握に有効であった
- ▲目標設定が高い児童がいた

意欲を持続させる手立ての継続・目標設定の見直し

・・・授業実践2へ